

TAC 制度下における漁業資源評価と資源管理に関する研究 1

(資源評価調査)

由木雄一・石田健次・安木茂・道根淳

1. 研究目的

我が国周辺水域内における漁業資源に対する科学的評価を行い、資源の適切な利用を図ることを目的として、国が定める調査要領に基づき、各種調査を実施する。さらに、関係県で構成する課題別研究チームに参加し、共同で資源評価を行う。

2. 研究方法

各漁協に整備されている漁獲成績報告書および漁業種別魚種別銘柄別漁獲量を整理し、主要 8 漁協において市場調査と生物精密測定を実施し、主要魚種に関する生物統計を作成する。さらに海洋観測、卵稚仔調査、魚探調査等の調査船調査を実施し、魚群分布、環境変動、産卵・加入状況などを明らかにする。その他、標本船調査による主要漁業の操業実態の把握を行う。

3. 研究結果

結果の概要は次に示すとおりで、これらは国が定める特定海洋生物資源（マアジ・マイワシ・マサバ・ズワイガニ・スルメイカ）の TAC 量及びその他の主要魚種に関する ABC 算定の基礎資料として利用された。調査結果の詳細は別添資料に示した。

(1) 漁場別漁獲状況調査

中型まき網および小型底びき網について、85 隻（統）の漁獲成績報告書の収集・整理を行った。また、ずわいがにかこの漁獲成績報告書の整理も行った。

(2) 生物情報収集調査

主要 22 魚種（マアジ・マサバ・マイワシ・ウルメイワシ・カタクチイワシ・ブリ・マダイ・キダイ・ヒラメ・ソウハチ・ムシガレイ・アカガレイ・トラフグ・タチウオ・カワハギ・ハタハタ・ニギス・スルメイカ・ケンサキイカ・ヤリイカ・ズワイガニ・ベニズワイ）について漁獲統計資料の整備を行った。また、そのうち 12 魚種（マアジ・マサバ・マイワシ・ウルメイワシ・カタクチイワシ・ブリ・マダイ・キダイ・ヒラメ・ソウハチ・ムシガレイ・スルメイカ）については生物測定調査を実施し、データベースを作成した。

(3) 調査船調査

沖合海洋観測等調査：沖合定線海洋観測（調査定点数 21）を 9・12 月に、卵稚仔定線海洋観測（調査定点数 29）を 4・5・6・3 月にそれぞれ実施し、漁況海況に関する資料の収集を行った。

(4) 標本船調査

中型まき網（6 統）と定置網（2 統）の標本船を選定し、操業記録および銘柄別統計の記録を依頼し、結果を整理した。

(5) 魚種別系群別資源評価

上記の各調査で得た基礎資料を基に日本海区・西海区水産研究所が中心となって行う資源解析と資源評価に、関係府県水産試験場と共同で魚種ごとの研究チームを編成し参加した。